

彙 報

会長 梶 茂樹

——常任委員会——

2014年度第2回常任委員会

日 時：2014年10月5日(日)11:00～16:30

場 所：日本言語学会事務支局（中西印刷学会フォーラム）

出席者：梶 茂樹(会長)、荻野綱男、窪菌晴夫、小林正人、定延利之、田野村忠温、新田哲夫、町田 健、米田信子（以上常任委員）、吉田和彦（事務局長）

オブザーバー：林 徹（編集委員長）、青木博史（大会運営委員長）、鈴木孝明（広報委員長）、加藤重広（夏期講座委員長）、内藤真帆、森 若葉（以上事務局委員）

[報告事項]

- (1) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第149回大会（2014年秋季大会）：2014年11月15～16日、愛媛大学（大会実行委員長：塚本秀樹氏）
 - 第150回大会（2015年春季大会）：2015年6月20～21日、大東文化大学（大会実行委員長：福盛貴弘氏）
 - 第151回大会（2015年秋季大会）：2015年11月（予定）、名古屋大学（大会実行委員長：佐久間淳一氏）
- (2) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (3) 言語系学会連合からの報告
 - ・日本言語学会選出の運営委員である窪菌晴夫氏から、7月5日に関西外国語大学で開催された2014年度意見交換会の報告があった。そのなかで、言語系学会連合としての研究倫理に関するガイドラインについて、言語学会が原案作成を担当することになったという報告がなされ、引き続き原案について討議した。
- (4) 日本言語学会論文賞の選考結果につい

て

- ・論文賞選考小委員会からの推薦に基づいて、2014年度日本言語学会論文賞が以下のように決定したことが会長より報告された。
 - 青井隼人氏「宮古多良間方言における「中舌母音」の音声的解釈」(『言語研究』142号)
 - 澤田淳氏「日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化—他言語との比較対照と合わせて—」(『言語研究』145号)
 - (5) 日本言語学会大会発表賞の選考結果について
 - ・大会発表賞選考小委員会からの推薦に基づいて、第148回大会（2014年6月）における大会発表賞が以下のように決定したことが会長より報告された。
 - 白田理人「奄美喜界島小野津方言の一人称代名詞の複数形」
 - 高橋康徳「上海語変調におけるピッチ下降の音韻特性：実験音韻論的考察」
 - (6) 外部団体の活動への協力について
 - ・以下の研究会について、日本言語学会に対して後援依頼があり、メール会議によって常任委員会です承されたことが説明された。
 - みんなく手話言語学フェスタ2014および関連イベント(2014年10月3～6日、国立民族学博物館)
 - (7) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について
 - ・8件の申請があり、申請理由が妥当と判断された7件の申請を認めたことが報告された。
 - (8) その他
 - ・本年度実施される役員選挙のスケジュールについて報告があった。
 - ・本年度運用を開始したe-naf（オンライン会員情報管理システム）の利用状況について報告があった。
- [審議事項]
- (1) 大会時におけるノートテイキングについて

- ・聴覚障害を持つ会員が大会における講演・研究発表等のノートテイキングを希望する場合、パソコンの使用を認めることが了承された。なおノートテイキングの費用は学会が補助するために、この措置については評議員会の承認が必要となるが、次回大会から実施することが望ましいことから、評議員会では事後承認を受けることになった。
- (2) 2015年度科学研究費補助金研究成果公開促進費（国際情報発信強化）の応募について
 - ・本年11月に日本学術振興会に提出する2015年度以降の研究成果公開促進費（国際情報発信強化）に関する計画調書の内容について、説明がありました。
- (3) その他
 - ・『言語研究』バックナンバーの保管冊数と保管期限について審議の結果、発行後1～3年目は全冊、4～5年目は20冊、6～20年目は5冊、21年目以降は永久保存分2冊を保管することになった。保管冊数を上回るバックナンバーについては処分する。
 - ・予稿集バックナンバーの保管冊数と保管期限について審議の結果、発行後1～2年目は20冊、3年目以降は2冊保管することになった。保管冊数を上回るバックナンバーについては処分する。
 - ・個人情報を含む書類は、現在ヤマト運輸の機密文書リサイクルサービスを利用して処分しているが、その保管期限について見直し案が出され、審議の結果了承された。

——評議員会——

2014年度第2回評議員会

日時：11月15日（土）10:30～12:00
 場所：愛媛大学城北キャンパス 法文学部 本館8階大会議室
 出席者：梶 茂樹（会長）、加藤重広、佐々木冠、小野尚之、小泉政利、後藤 斉、伊藤たかね、上野善道、遠藤善雄、風間

伸次郎、窪蘭晴夫、坂原 茂、中川 裕、林 徹、福井直樹、北野浩章、佐久間淳一、清水克正、玉岡賀津雄、町田 健、工藤真由美、田窪行則、田野村忠温、野田尚史、藤代 節、松本 曜、吉田和彦、桐生和幸、塚本秀樹、辻 星児、和田 学、青木博史、上山あゆみ、江口正、久保智之（以上評議員35名）

委任状：22名

オブザーバー：金水 敏（会計監査委員）、福森貴弘（次期大会実行委員長）、鈴木孝明（広報委員長）、内藤真帆、森若葉（以上事務局委員）

議事に先立ち、会長より開催校である愛媛大学に対する謝意が表された。また7月23日に逝去された坂本勉氏、8月25日に逝去された湯川恭敏氏のご冥福をお祈りし、黙祷が行われた。

[報告事項]

- (1) 今後の大会開催予定について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第150回大会（2015年春季大会）：2015年6月20～21日、大東文化大学板橋キャンパス（大会実行委員長：福盛貴弘氏）
 - 第151回大会（2015年秋季大会）：2015年11月（予定）、名古屋大学（大会実行委員長：佐久間淳一氏）
- (2) 各種委員会からの報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (3) 言語系学会連合からの報告
 - ・日本言語学会選出の運営委員である窪蘭晴夫氏から、7月5日に開催された意見交換会の報告がなされた。議事内容は、不正行為等に関する倫理規定の作成、ウェブ上に公開された博士論文の扱い、ろう者への対応などであった。
- (4) 日本言語学会論文賞の選考結果について
 - ・論文賞選考小委員会からの推薦に基づいて、2014年度日本言語学会論文賞が以下のように決定したことが会長より報告

- された。
- 青井隼人氏「宮古多良間方言における「中舌母音」の音声的解釈」(『言語研究』142号)
- 澤田淳氏「日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化—他言語との比較対照と合わせて—」(『言語研究』145号)
- (5) 日本言語学会大会発表賞の選考結果について
- ・大会発表賞選考小委員会からの推薦に基づいて、第148回大会(2014年6月)における大会発表賞が以下のように決定したことが会長より報告された。
 - 白田理人「奄美喜界島小野津方言の一人称代名詞の複数形」
 - 高橋康徳「上海語変調におけるピッチ下降の音韻特性：実験音韻論的考察」
- (6) 外部団体の活動への協力について
- ・国立民族学博物館より「みんなく手話言語学フェスタ2014(2014年10月3～6日)」について後援依頼があり、常任委員会で審議のうえ了承されたことが報告された。
- (7) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について
- ・8件の申請があり、申請理由が妥当と判断された7件について申請を認めたことが報告された。
- (8) 2015年度科学研究費補助金研究成果公開促進費(国際情報発信強化)の応募について
- ・日本学術振興会に提出した2015年度以降の研究成果公開促進費(国際情報発信強化)に関する計画調書の内容について報告がなされた。
- (9) 役員選挙スケジュールについて
- ・2015年度からの日本言語学会新役員選挙スケジュールについて、説明がなされた。
- (10) e-naf(オンライン会員情報管理システム)の運用状況について
- ・本年8月から導入したe-naf(オンライン会員情報管理システム)の運用状況について報告がなされた。役員選挙に向け

た会員登録情報の確認や修正のためにも、まだログインを済ませていない会員には周知のうえ利用を勧めるようにとの要望が示された。

- (11) 『言語研究』バックナンバーの保管冊数と保管期限について
- ・『言語研究』バックナンバーの保管冊数と保管期限について、常任委員会で決定した方針が報告された。
- (12) 予稿集バックナンバーの保管冊数と保管期限について
- ・予稿集バックナンバーの保管冊数と保管期限について、常任委員会で決定した方針が報告された。
- (13) 個人情報を含む書類の保管期限について
- ・個人情報を含む書類の保管期限について、常任委員会で決定した方針が報告された。
- (14) その他
- ・第147回大会において発生した剽窃による研究発表に関連して、同じ会員が第139回大会のワークショップにおいても剽窃行為を行っていたことが報告された。この問題については、当時の所属大学が組織的な調査をすでに行っていること、および剽窃の程度が軽微であることを勘案し、言語学会としては新たに調査委員会を設置しなかったという説明がなされた。
 - ・『言語研究』がJ-STAGE 掲載審査の結果、優先誌に選定されたとの報告がなされた。
 - ・149回大会においても、ノートテイキングと手話通訳の措置がなされるとの報告があった。また今回は、希望する会員およびノートテイクと手話通訳者に、予稿集の該当頁PDFを事前に配布したという説明があった。

[審議事項]

- (1) 研究倫理に関するガイドラインについて
- ・言語系学会連合が所属学会に対して検討を依頼した研究倫理に関するガイドライ

ン(案)について、日本言語学会選出の運営委員である窪蘭晴夫氏から説明があった。評議員会においては特段の修正意見は出されなかった。

(2) 大会時におけるノートテイキングについて

- ・大会時におけるノートテイキングについて、パソコンの使用を認めるという常任委員会での審議結果が報告され、承認された。

——大会運営委員会——

2014年度第2回大会運営委員会

日時：2014年9月5日(金) 11:00～15:30

場所：中西印刷4階会議室

出席者：青木博史(運営委員長)、河内一博、芝垣亮介、本間 猛、宮本陽一、小野寺典子、佐久間淳一、佐々木冠、塚本秀樹(兼大会実行委員長)

[報告事項]

- (1) 第148回大会(法政大学)の反省点、およびそれをふまえた取り組みについて、大会運営委員長より報告がなされた。
- (2) 第149回大会(愛媛大学)の準備状況について、大会実行委員長を兼ねる塚本秀樹氏より、配布資料に基づいて報告がなされた。

[審議事項]

- (1) 第149回大会における研究発表の採否について審議した。応募要旨の審査結果に基づき、口頭発表56件(応募98件)、ポスター発表5件(応募7件)、ワークショップ3件(応募3件)を採択することとした。
- (2) プログラムの編成を行った。口頭発表は8会場×7本(移動10分)とし、各発表の振り分け、会場担当の委員ならびに司会者候補を決定した。
- (3) 大会実行委員長より提案された、シンポジウム・ワークショップ・口頭発表・ポスター発表会場、受付、書店展示、保

育室、休憩室、懇親会などの各種会場の設定について検討を行った。但し、実際に会場を見てみないと決定できない事項がいくつか出てきたため、後日、大会運営委員長が視察に行き解決することとした。

——広報委員会——

- ・英語版ホームページ改善の一環として行ってきた、『言語研究』目次の英語化が完了した。
- ・J-STAGEにおける『言語研究』掲載論文の公開手続きを進行中である。現段階では、利用申請を完了し、JSTと第2回目の打ち合わせを終了した。
- ・学会関連情報(第149回大会に関連する情報、大会発表賞、公募情報、研究会情報など)を逐次学会ホームページに掲載した。
- ・オンライン会員情報管理システム(e-naf)に関する情報をホームページに掲載した。また、これに伴って「入会等事務手続き」と「新規入会について」に変更を加えた。
- ・現在利用しているサーバーが2015年3月をもってサービスを終了することになった。これを機に、日本言語学会のドメインアドレスを取得し、中西印刷を介して新しいサーバーでホームページの運営を行うことになった。

——夏期講座委員会——

- ・2014年8月18日から6日間、名古屋大学にて夏期講座を開催した。参加者は154名と予想より少なかったが、参加者の満足度は高く、大過なく終えた。
- ・夏期講座2016は、2016年8月22日より27日まで大阪大学豊中キャンパスでの開催を念頭に準備を進めている。開講科目などの詳細は2015年6月の夏期講座委員会で決定する予定である。

——小委員会——

論文賞選考小委員会

- ・『言語研究』142～145号に掲載された論文から、2014年度の日本言語学会論文賞の受賞候補論文を選考し、会長への推薦を行った。

大会発表賞選考小委員会

- ・2014年10月16日(木)に東京大学駒場キャンパスにおいて2014年度第3回の会合を開き、第149回大会(愛媛大学)での大会発表賞の審査基準・審査方法を確認し、審査対象となる研究発表と審査手順を決定した。
- ・2014年12月17日(水)に日本大学文理学部キャンパスにおいて2014年度第4回の会合を開き、第149回大会(愛媛大学)での大会発表賞の受賞候補となる研究発表を選考した。また、授賞理由の原案を作成した。その結果を12月31日に会長へ報告した。
- ・2014年度日本言語学会大会発表賞(第148回大会, 第149回大会)の選考にあたり、延べ52名の方々に審査員としてご協力いただきました。心よりお礼申し上げます。以下に、許諾をいただいた方のお名前を掲載させていただきます(敬称略, 五十音順)。

井上 優	上山あゆみ	内堀朝子
遠藤喜雄	大堀壽夫	小野尚之
風間伸次郎	加藤重広	河内一博
岸本秀樹	北野浩章	北原久嗣
桐生和幸	久保智之	窪蘭晴夫
呉人 恵	酒井 弘	坂原 茂
佐久間淳一	佐々木冠	澤田英夫
三間英樹	塩原朝子	芝垣亮介
下地理則	鈴木亮子	田窪行則
田中伸一	玉岡賀津雄	千田俊太郎
張 麟声	塚本秀樹	中川 裕
中谷健太郎	新田哲夫	野田尚史
長谷川信子	林 徹	広瀬友紀
福嶋教隆	藤代 節	堀江 薫
本間 猛	町田 健	松岡和美

松本 曜 峰岸真琴 三宅知宏
 宮本陽一 吉田 豊 米田信子
 和田 学

2014年度日本言語学会大会発表賞選考小委員会

萩野綱男(委員長)
 青木博史
 伊藤たかね
 渡辺 己

——事務局——

- ・2015年3月23日(月)15:00から18:00まで日本言語学会事務支局(中西印刷学会フォーラム)において、事務局の引継ぎを行った(出席者:梶茂樹会長, 吉田和彦事務局長, 窪蘭晴夫次期会長, 野田尚史次期事務局長, 日本言語学会事務支局担当者 国料尚子)。

第 149 回大会

期日 2014年11月15日(土)・11月16日(日)

会場 愛媛大学

公開シンポジウム 11月16日(日)13:20～16:20

「現代語研究と歴史的研究の接点」

企画・司会 塚本 秀樹

- | | | |
|-------|------------------------|-------|
| (S 1) | 準体助詞をめぐる諸問題 | 柴谷 方良 |
| (S 2) | 日本語の数詞+助数詞のアクセント | 角道 正佳 |
| (S 3) | インド・アリア語における場所格の連体修飾 | 小林 正人 |
| (S 4) | 韓国語名詞パラダイムにおける類推と語彙再構築 | 伊藤智ゆき |

口頭発表

—第1日(11月15日(土))13:00～17:40—

◦A会場

- | | | | |
|-------|--------|--|---|
| (A 1) | 13:00～ | 韓国語の語彙的複合動詞の意味解釈—LCSの合成とその制約を中心に— | 全 敏杞 |
| (A 2) | 13:40～ | 動名詞と存在文 | 久保田一充 |
| (A 3) | 14:20～ | 日本語文産出の語順選好に及ぼす競合的要因の検証 | 鈴木 孝明 |
| (A 4) | 15:00～ | 名詞複合語連濁生起における、アクセント変化および同一モーラ連続の影響：発話実験による検討 | 曾根 雅輝
広瀬 友紀 |
| (A 5) | 15:30～ | Processing of pre-nominal relative clauses in Korean | Yoan KIM
Masataka YANO
Yuki TATEYAMA
Tutomu SAKAMOTO |
| (A 6) | 16:30～ | 日本語の第一言語獲得早期における動詞屈折とインプット | 巽 智子
Julian M. Pine |
| (A 7) | 17:10～ | 日本語失文法者の間接受動文産出に関する一考察 | 井原 浩子
藤田 郁代 |

◦B会場

- | | | | |
|-------|--------|---|-------|
| (B 1) | 13:00～ | 内モンゴルのモンゴル語諸方言に見られる終助詞=leeについて | 山田 洋平 |
| (B 2) | 13:40～ | 現代ウイグル語の接辞 -IKについて | 新田 志穂 |
| (B 3) | 14:20～ | アルタ語における動詞接辞の分類と記述 | 木本 幸憲 |
| (B 4) | 15:00～ | タガログ語の重複と反復の形式と意味 | 長屋 尚典 |
| (B 5) | 15:50～ | シベ語の動詞接尾辞 -mi, -Xeи の機能とツングース諸語における述語人称標示 | 児倉 徳和 |
| (B 6) | 16:30～ | ウズベク語の動名詞節における主語の格選択について | 日高 晋介 |
| (B 7) | 17:10～ | ラワン語の2つの形容詞 | 大西 秀幸 |

◦C会場

- | | | | |
|-------|--------|--|-------|
| (C 1) | 13:00～ | ウェールズ英語における平叙文とYes/No疑問文イントネーションの基本パターン | 新城真里奈 |
| (C 2) | 13:40～ | 日本語を母語とする韓国語学習者の語頭平音・激音・濃音の知覚判断：初級および上級学習者と母語話者の比較から | 韓 喜善 |

(C 3)	14:20 ~	ロシア語の縮小辞形成にみる生成文法的側面	渡部 直也
(C 4)	15:00 ~	ラテン語における ti 語幹名詞の母音階梯について	大西 貞剛
(C 5)	15:50 ~	カクチケル語 VOS 語順の産出に及ぼすアクセシビリティの効果	久保 琢也 小野 創 田中 幹大 小泉 政利 酒井 弘
(C 6)	16:30 ~	ナワトル語イシユワカン方言における定性と2種のコピュラ文	佐々木充文
(C 7)	17:10 ~	バスク語の2種類のコピュラ文の類型論的な位置づけ	石塚 政行
・D 会場			
(D 1)	13:00 ~	Deictic Directionals in Kalanguya, Northern Philippines	Paul Julian SANTIAGO
(D 2)	13:40 ~	中国語の中間経路表現に関する一考察—日本語との対照も兼ねて	鄭 若曦
(D 3)	14:20 ~	日本語とスペイン語の1人称主語受身文—会話文テキストにおける	志波 彩子
(D 4)	15:00 ~	仮定条件の仮定性と前提性について—日韓対照研究—	金 智賢
(D 5)	15:50 ~	日本手話における否定的談話標識としての首ふり表現	南田 政浩 松岡 和美
(D 6)	16:30 ~	日本手話の「違う」: 手指表現優位型の否定表現	原田なをみ 高山智恵子
(D 7)	17:10 ~	動詞のスケール構造と二種類の Measure Phrases の分布について	田中 英理
・E 会場			
(E 1)	13:00 ~	沖永良部語正名方言における動詞「あるく」の文法化	ハイス・ファン・デル・ルベ
(E 2)	13:40 ~	前期近代朝鮮語における形式名詞 kes の文法化	小山内優子
(E 3)	14:20 ~	現代朝鮮語の補助動詞 'nohta' について— [V1+PUT] 研究—	黒鳥 規史
(E 4)	15:00 ~	日本語の補助動詞構文「ておく」の意味	古藤 博子
(E 5)	15:50 ~	日本語における態の選択—動詞「支える」のコーパス言語学的ケース・スタディー—	ルディ・トート
(E 6)	16:30 ~	青森県津軽方言の接尾辞「サル」	大槻 知世
(E 7)	17:10 ~	「秘義化 (esoterogeny)」によるムラブリ語の方言分岐	伊藤 雄馬
・F 会場			
(F 1)	13:00 ~	佐賀県北方町周辺方言における3拍5類の対応がアクセントの歴史研究に与える示唆	五十嵐陽介 平子 達也
(F 2)	13:40 ~	西之表方言におけるアルファベット関連語彙のアクセント	荒河 翼
(F 3)	14:20 ~	鳥取県倉吉方言における地名のアクセント—尾高型アクセントに注目して—	桑本 裕二 儀利古幹雄
(F 4)	15:00 ~	町名のアクセントの平板化—東京方言, 名古屋方言, 倉吉方言の比較—	儀利古幹雄 竹安 大

- (F 5) 15:50 ~ モンゴル語複合語のピッチパターン—音韻構造・意味関係との関連性— 植田 尚樹
- (F 6) 16:30 ~ アミ語声門閉鎖音に関する再考察 今西 一太
- (F 7) 17:10 ~ フィジー語における挿入母音と固有母音素性 那須川訓也
大沼 仁美
小泉 政利
- G 会場
- (G 1) 13:00 ~ On the Wh-Island Effect by Native Speakers of Japanese: A VAS-Based Analysis Lina BAO
Megumi HASEBE
Toshiro UMEZAWA
Hideki MAKI
- (G 2) 13:40 ~ The Absolutive/Genitive Alternation in Selayarese Hideki MAKI
Hasan BASRI
- (G 3) 14:20 ~ Extraction from the Complement Clause of the Factive Predicate *Is Trua Le* 'To Regret' in Irish Dónall P. Ó BAOILL
Hideki MAKI
- (G 4) 15:00 ~ A hybrid analysis for LF-intervention effects: Polarity sensitive items as genuine LF-interveners Ryoichiro KOBAYASHI
- (G 5) (発表者の都合により中止)
- (G 6) 16:30 ~ 日本語における、述語の語幹で終わるフレーズ同士の等位接続 矢田部修一
谷川 恵
- (G 7) 17:10 ~ 逆スコープ解釈と場面描写 林下 淳一
- H 会場
- (H 1) 13:00 ~ 日本語の述語繰り返し構文による極性の強調について 石原 由貴
- (H 2) 13:40 ~ Plain Anaphor としての「お互い」および「自分自身」と束縛原理 (A) の循環的解釈 加藤 静華
- (H 3) 14:20 ~ Modal Phrase の再検討—東京方言「だろう」及び「まい」と肥筑方言「めえ」の違い— 木戸 康人
- (H 4) 15:00 ~ 埋め込み節におけるモーダル表現と機能範疇及び主動詞の選択条件の関係について 宗像 孝
- (H 5) 15:50 ~ 転送操作の領域拡大およびそれに伴う理論的問題についての—考察 中西 亮太
- (H 6) 16:30 ~ 日本語における否定辞移動と短縮応答文 内芝 慎也
- (H 7) 17:10 ~ 日本語・英語における身体属性表現の統語的・形態的分析 森田 千草

ワークショップ

—第2日 (11月16日 (日)) 10:00 ~ 12:00—

ワークショップ1 (講24)

- (W 1) 文のプロソディーと語のプロソディー 企画・司会：窪蘭 晴夫
- (W 1-1) 鹿児島方言における文のプロソディーから見た語のアクセント 窪蘭 晴夫
- (W 1-2) 南琉球宮古語池間方言の語アクセントの中和と文レベルでの実現 五十嵐陽介
- (W 1-3) ヘレロ語 (バントゥ R31) における語のプロソディと文レベルの現象 米田 信子

ワークショップ2 (講35)

- | | | |
|---------|--------------------------------|-------------|
| (W 2) | 名詞述語研究への新たな話題提示 | 企画・司会：岩男 考哲 |
| (W 2-1) | メタ用法の叙述の類型での位置づけ | 岩男 考哲 |
| (W 2-2) | 出現する位置に着目した「副詞+の+名詞」の研究 | 建石 始 |
| (W 2-3) | ネワール語における <i>-gu kha</i> 文とノダ文 | 松瀬 育子 |

ワークショップ3 (講45)

- | | | |
|---------|-----------------------|------------|
| (W 3) | 北東ユーラシア諸言語における否定構造 | 企画・司会：長崎 郁 |
| (W 3-1) | サハ語における肯否の対称性と否定を含む派生 | 江畑 冬生 |
| (W 3-2) | コリマ・ユカギール語における否定と他動性 | 長崎 郁 |
| (W 3-3) | アリユートル語における肯否の非対称性 | 永山ゆかり |
| (W 3-4) | イテリメン語の否定と法 | 小野智香子 |

ポスター発表

—第2日 (11月16日 (日)) 11:30 ~ 12:50—

(講33)

- | | | |
|-------|---------------------------------|-------|
| (P 1) | チベット語東西方言における言語特徴の比較 | 海老原志穂 |
| (P 2) | 愛媛県大島のビレッジサイン (手話方言) における数と時の表現 | 矢野羽衣子 |
| | | 松岡 和美 |
| | | 平 英司 |

(講34)

- | | | |
|-------|--|-------|
| (P 3) | 福井平野周辺地域におけるアクセントの周囲分布 | 松倉 昂平 |
| (P 4) | 複合動詞の連用形名詞データベースの構築とそれに基づく諸仮説の
検証：生産性・語アクセント・意味特徴 | 田川 拓海 |
| | | 松浦 年男 |
| (P 5) | オノマトベを含む教示が嚙下運動に及ぼす影響 | 水本 豪 |
| | | 橋本 幸成 |
| | | 植原 希 |
| | | 内田 優希 |
| | | 古閑 公治 |

日本語学会 2015～2017 年度役員選挙の結果について

2015～2017 年度役員（会長、編集委員長、会計監査委員、評議員）の選挙を、会則・選挙規則および選挙細則に基づいて、以下の日程で行った。

2014 年 11 月 21 日（金）選挙人名簿発送

2014 年 12 月 24 日（水）投票用紙発送

2015 年 1 月 20 日（火）投票締め切り（当日消印有効）

開票は下記の選挙管理委員会で行われた。

日 時：2015 年 1 月 25 日（日）10:00～15:00

場 所：日本語学会事務支局（中西印刷学会フォーラム）

出席者：梶 茂樹（選挙管理委員長）、定延利之、佐藤昭裕、沈 力、立石浩一、田野村忠温、藤代 節、益岡隆志（以上、選挙管理委員）

オブザーバー：吉田和彦（事務局長）、内藤真帆、森若葉（以上、事務局委員）

開票結果は以下の通り

投票総数	163	うち有効投票数	155
		無 効	8

1. 会長選挙

投票総数	155	うち有効投票数	145
		白 票	9
		無 効（白票を除く）	1
当 選	窪 蘭 晴 夫	39 票	
次 点	田 窪 行 則	30 票	
次々点	林 徹	29 票	

2. 編集委員長選挙

投票総数	155	うち有効投票数	120
		白 票	25
		無 効（白票を除く）	10
当 選	金 水 敏	15 票	
次 点	吉 田 豊	14 票	
次々点	井 上 優	8 票	

3. 会計監査委員選挙

投票総数	310	うち有効投票数	234
		白 票	54
		無 効（白票を除く）	22
当 選	久 保 智 之	12 票	
当 選	田 野 村 忠 温	12 票	
次 点	加 藤 重 広	8 票	
次々点	町 田 健	8 票	

4. 評議員選挙

選挙細則に基づき、当選者のみを各地区別に五十音順に掲げる。

[北海道] (定数3名) 加藤重広, 佐々木冠, 津曲敏郎

[東北] (定数3名) 小野尚之, 小泉政利, 後藤 斉

[関東] (定数30名) 池田 潤, 井上 優, 上野善道, 大津由紀雄, 大堀壽夫, 荻野綱男, 生越直樹, 尾上圭介, 影山太郎, 風間伸次郎, 河内一博, 菊地康人, 北原久嗣, 木部暢子, 澤田英夫, 滝浦真人, 角田太作, 長屋尚典, 西村義樹, 野田尚史, 長谷川信子, 林 徹, 早津恵美子, Prashant Pardeshi, 福井直樹, 松森晶子, 峰岸真琴, 三宅知宏, 鷲尾龍一, 渡辺 己

[中部] (定数9名) 北野浩章, 呉人 恵, 斉藤 衛, 佐久間淳一, 澤田治美, 玉岡賀津雄, 新田哲夫, 堀江 薫, 町田 健

[近畿] (定数16名) 有田節子, 上田 功, 梶 茂樹, 金水 敏, 工藤真由美, 定延利之, 沈 力, 田窪行則, 千田俊太郎, 藤代 節, 益岡隆志, 松本 曜, 由本陽子, 吉田和彦, 吉田豊, 米田信子

[中国・四国] (定数5名) 桐生和幸, 酒井 弘, 塚本秀樹, 辻 星児, 宮崎和人

[九州・沖縄] (定数5名) 青木博史, 江口 正, 狩俣繁久, 金 智賢, 平子達也

なお、窪蘭晴夫(関東地区)、久保智之(九州・沖縄地区)、田野村忠温(近畿地区)は評議員当選に足る票数を得たが、それぞれ会長あるいは会計監査委員に就任のため、兼任禁止規定により評議員とはならない。これに伴い当該地区で繰り上げ当選が生じた。

◇退 会

国内通常会員：107名

国内維持会員：1名

国内学生会員：1名

在外通常会員：13名

122名